



### ■不登校生徒への取組について

桂川中学校校長 石田 英書

不登校の問題については、福岡県ですでに7千人を上回っています。桂川中学校の不登校生徒数は、昨年度より横ばい傾向にあるため、不登校生徒を生まない魅力ある学校づくりを推進しているところです。

特に本校における全教育活動を通じて「心の居場所づくり」「絆づくり」を重視した取り組みを行うとともに、学校だけの取組に終わらせることなく、スクールソーシャルワーカーを活用して行政との連携強化を図り、民生委員やケースワーカーとの連携を強化し、対応に当たっております。

さらには、本校に配置されておりますスクールカウンセラーによる生徒や保護者へのきめ細かなカウンセリングなど、新たな不登校生徒を生み出さない取組も進めているところです。

また、従来からの福岡県独自の取り組みとしての「マンツーマン」方式による不登校生徒への対応や本校サポート教室を活用して学級への復帰の準備を進める生徒等の対応も進めています。その結果、学校復帰を果たす生徒や学級まで行けないが、サポート教室で学校生活を送れる生徒の数も増えて

いるところです。また、桂川町周辺のフリースクールや適応指導教室に参加する生徒もいます。

今後も不登校への対応の充実を図るために「未然防止」「早期対応」「きめ細かで継続的な支援」を行い、不登校問題の解消に向けて取り組んでいきます。

### ■令和元年度「全国学力・学習状況調査」における桂川町の児童・生徒の状況(その2)

桂川町教育委員会

10月号に引き続き本年度の「全国学力・学習状況調査」から見える桂川町の児童・生徒の状況を報告します。

調査では学力の状況だけでなく、学習の状況や生活実態も見えてきます。調査対象は、小学校六年生と中学校三年生です。

学校生活で、桂川町が全国平均や県平均と比べてポイントの高い項目としては、

○先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか

○先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれますか

○学級みんなで話し合っって決めたことなどに協力して取り組み、うれしかったことがありますか

子ども達は、学校生活を前向きに取り組み、先生や友達との関係も良好であるようです。

しかし、家庭生活では、

○朝食を食べていますか

○毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか

の項目が低く、課題となっています。

また、社会生活においては、「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」

の項目は高いのですが、全国平均と比べて改善を必要とする項目としては、

○家の人と学校での出来事についてあまり話をしていない

○新聞をあまり読んでいない

○住んでいる地域の行事に、あまり参加していない

これらの項目が、小中共に課題として上がっています。地域社会での活動機会を積極的に活用していただければと思います。よろしくお願いします。

#### 【全国平均を上回っている項目】

- 先生は、あなたのよいところを認めてくれている
- 先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれる
- 学級みんなで話し合っって決めたことなどに協力して取り組み、うれしかったことがある
- 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることができる

#### 【全国平均と比べて改善を必要とする項目】

- 朝食を毎日食べていない
- 毎日、同じくらいの時刻に寝ていない
- 家の人と学校での出来事について、あまり話をしていない
- 新聞をあまり読んでいない
- 今住んでいる地域の行事に、あまり参加をしていない